JAIST Repository
https://dspace.jaist.ac.jp/

Title	日本と中国の知的財産活用の比較に基づく産学連携政策の再考：中国大学の知的財産の扱い方とその影響要素について
Author(s)	趙, 炎
Citation	年次学術大会講演要旨集, 38: 564-564
Issue Date	2023-10-28
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/19203
Rights	本著作物は研究・イノベーション学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Research Policy and Innovation Management.
Description	一般講演要旨

JAIST
JAPAN ADVANCED INSTITUTE OF SCIENCE AND TECHNOLOGY

Japan Advanced Institute of Science and Technology

２Ａ０２

日本と中国の知的財産活用の比較に基づく産学連携政策の再考

--中国大学の知的財産の扱い方とその影響要素について

○趙　炎（政策研究大学院大学）
doc19152@grips.ac.jp

本研究は、近年急速な勢いで特許数が増加している中国、特に中国の大学の知財活用の現状を明らかにし、活用方法の特徴を検証することにより、大学知財の活用に影響を与える要素を明らかにすることを目的としている。これにより、各要素間のインタラクションや、知財活用効果への影響のメカニズムを考察したい。そして、普遍的な大学知財の効率的活用のための政策提案につなげていきたい。

現状では中国の大学特許は日本と異なり、ライセンスされるより売却される場合の多いことが観測されている。売却される特許はライセンスされる特許よりも価値が低いのだろうか？この点を明らかにするために、まず、特許が①売却される場合、②ライセンスされる場合、③それ以外の場合、について、特許の維持期間に差があるかどうかを調べた。

一、特許データの収集：

中国国家知識産権局（CNIPA）のデータを利用し、2010 年から 2015 年までの大学が出願した特許データを収集した。2010 年～2015 年毎年①売却される場合②ライセンス場合③それ以外の場合の特許、それぞれ 200 件の特許を抽出し、合計 3600 件のデータが分析対象である。

二、Cox 比例ハザード回帰の分析結果

1. 売却された特許はライセンスされた特許より生存率が高い。
2. 2010 年―2014 年の中国大学特許の生存率は前年比高くなり、2015 年は 2014 年よりわずか低い。
3. 技術分類の生存率について、統計的有意性はあまりないが、「バイオテクノロジー.医薬品」の生存率はその他の分類より高く結果になっている。「その他」の生存率は低い。
4. 大学の所属は特許の生存率に影響があまりない。
5. 発明者数は特許の生存率に影響があまりない。
6. 外国出願の特許は外国出願していない特許より生存率が高い。

三、結論と今後の課題

中国の大学発特許の生存率に差をもたらす「売却・ライセンス」「技術分野」、「大学の所属機関」、「発明者の数」、「外国への出願状況」による分析を行った結果、売却された特許の生存期間が長いことが判明した。今後、なぜ売却された特許の生存期間が長いのか、日本の大学発特許の生存期間と比較しながら、その原因を究明したい。

また、技術分野と大学の所属機関、発明者の数は、特許生存期間との関連がほとんどなかった。本来、中国の大学には得意な技術分野と不得意な技術分野があり、所属機関により研究開発費と投入リソースなどの差もあるにもかかわらず、なぜ特許の生存期間に差がないのかの原因も分析していきたい。